

## 国語分科会検討状況報告

## 1. 開催状況

平成17年 3月30日 文化審議会総会

( 中山大臣より敬語と漢字の二つの課題について諮問 )

5月16日 第1回国語分科会総会

( 諮問についての説明, 会長互選, 議事公開について等 )

6月16日 「懇談会」の開催

( 委員の意見交換を中心に, 今後の進め方について議論 )

7月 5日 第2回国語分科会総会

( 今後の検討は「敬語」及び「漢字」の二つの小委員会で行うこととされた )

## ( 敬語小委員会 )

諮問事項「敬語に関する具体的な指針の作成について」を検討する。

9月 7日 第1回敬語小委員会

9月30日 第2回敬語小委員会

( ワーキンググループの設置を決定 )

10月21日 第3回敬語小委員会

11月 7日 第1回敬語ワーキンググループ

11月14日 第4回敬語小委員会

11月28日 第2回敬語ワーキンググループ

12月 5日 第3回敬語ワーキンググループ

12月12日 第4回敬語ワーキンググループ

12月19日 第5回敬語小委員会

12月19日 第5回敬語ワーキンググループ

1月16日 第6回敬語ワーキンググループ

1月19日 第6回敬語小委員会

## ( 漢字小委員会 )

諮問事項「情報化時代に対応する漢字政策の在り方について」を検討する。

9月13日 第1回漢字小委員会

10月31日 第2回漢字小委員会

11月29日 第3回漢字小委員会

12月16日 第4回漢字小委員会

1月20日 第5回漢字小委員会

平成18年 1月30日 第3回国語分科会総会

今期の審議について

## 2. 分科会委員名簿

	阿 辻 哲 次	<漢>	京都大学教授
分科会長	阿刀田 高	<敬, 漢>	小説家
	井 田 由 美	<敬>	日本テレビ報道局解説委員
	市 川 團十郎	<敬>	歌舞伎俳優
	岩 淵 匡	<漢>	早稲田大学教授
	内 田 伸 子	<敬>	お茶の水女子大学副学長・理事
	大 原 穰 子	<敬>	ドラマの方言指導
	甲 斐 睦 朗	<漢>	前独立行政法人国立国語研究所長
	金 武 伸 弥	<漢>	日本新聞協会用語専門委員
副主査(敬語)	蒲 谷 宏	<敬W>	早稲田大学教授
	菊 地 康 人	<敬W>	東京大学教授
	小 池 保	<敬W>	元NHKアナウンサー・解説委員, 尚美学園大学教授
	坂 本 惠	<敬W>	東京外国語大学教授
	佐 藤 元 伸 (伊奈 かつぺい)	<敬>	青森放送株式会社ラジオ局副参事
	陣 内 正 敬	<敬W>	関西学院大学教授
主査(敬語)	杉 戸 清 樹	<敬W>	独立行政法人国立国語研究所長
	東 倉 洋 一	<漢>	国立情報学研究所副所長
	西 原 鈴 子	<敬>	東京女子大学教授
副主査(漢字)	林 史 典	<漢>	筑波大学理事・副学長
主査(漢字)	前 田 富 祺	<漢>	神戸女子大学教授
	松 岡 和 子	<漢>	翻訳家・演劇評論家
	松 村 由 紀子	<漢>	目黒区立第七中学校長
	山 内 純 子	<敬>	全日本空輸執行役員客室本部長

<敬>は敬語小委員会に所属する委員, <敬W>は敬語小委員会及び敬語ワーキンググループに所属する委員, <漢>は漢字小委員会に所属する委員をそれぞれ示す。

## 3. 検討内容等

国語分科会では, 敬語小委員会における検討を受けて, 「敬語の具体的な指針」に関し, 以下のような方針で作成することが了承された。

## (1) 「敬語の具体的な指針」作成に当たったの基本方針

敬語が必要だと感じているが, 現実の運用に際しては困難を感じている人たちを主たる対象とし, どのような分野の人間にとっても<基本となる「よりどころ」>を示していく。

## (2) 「敬語の具体的な指針」の構成及び内容について

## 1. 総論

今後の敬語についての基本的な考え方について、「現代社会における敬意表現」(第22期国語審議会答申・平成12年)の内容との関連性を踏まえて記述する。

## 2. 敬語の仕組み

敬語(特に、尊敬語・謙譲語・丁寧語等の、狭義の敬語を中心にして)というものの基本的な仕組み(語形の種類や敬語としての意味、それらの相互関係及び体系性)と、そのとらえ方を、典型的な具体例を用いながら、簡潔・平易に記述する。この内容が、諸方面から求められる「指針」として、「敬語を考える基本的なよりどころ」となることを目指す。

## 3. 敬語の具体的な使い方

場面やその場の人間関係などを含めて、具体的な敬語の使い方を解説し、今後の敬語の「指針」を具体的に示す。具体例の中には、敬語の誤用や過不足など、問題の敬語として議論されることの多い事例を含めて、本「指針」が「具体的なよりどころ」ともなるように内容を充実させる。

国語分科会では、漢字小委員会における検討を受けて、「情報化時代に対応する漢字政策の在り方」に関し、以下のような課題の解決が必要であることを確認した。

## (1) 総合的な漢字政策の在り方にかかわること

情報機器の普及を前提とした「漢字政策」を構築していくために必要な考え方や観点を整理していく。

情報機器の普及に伴って増加している「書けないけれど読める漢字」の扱い方、「手書き」と「文字を打ち出す」こととの関係、国語施策の定期的な見直しの必要性、「学校教育での漢字学習」と「一般の漢字使用」との関係等

JIS漢字や人名用漢字を含め、国としての一貫した漢字政策が必要であり、それに資するような基本的な理念や考え方を整理していく。

特に問題となる固有名詞(特に地名・人名)の表記についての考え方を整理し、参考となるような基準(よりどころ)が提示できるか等

## (2) 常用漢字表の見直しにかかわること

どの程度まで見直すかは今後の課題であるが、見直すこと自体は不可欠であるという方向で検討を進めていく。

見直しの観点を整理し、必要な観点を具体化していく。

これまでの漢字政策との関係、字種や音訓の入替えの問題、「漢字を書くこと」をどう位置付けるか、学校教育における漢字習得との関係等

正確な漢字実態調査に基づいて、見直していくことが大切であり、検討に必要な調査を実施していく。

「表外漢字字体表」作成時の資料集(8種9冊)や、国語研究所「現代雑誌の漢字調査」に加えて、どのような新規の調査を実施するか等